

糖尿病患者に接する看護師の認識する壮年期2型糖尿病患者のセルフケアの影響要因

6階東病棟

○ 古川 祐子

目的

壮年期糖尿病患者は、様々な社会的役割と責任を持って生活しており、社会的環境や人間関係等によりセルフケア継続は容易ではない。糖尿病患者が増加傾向にある中、患者を対象とした糖尿病患者のセルフケアやコントロールに影響を及ぼす要因の研究は盛んに行われているが、日々糖尿病患者と接している看護師を対象とした研究は少ない。看護師の認識するセルフケアの影響要因が、患者のセルフケア不足を予測させ、セルフケアに導く援助に繋がると考えられる。そこで本研究の目的を、糖尿病患者に接する看護師の捉える壮年期2型糖尿病患者のセルフケアに影響する要因を明らかにし、合併症予防のためのセルフケアが継続できるような看護援助の示唆を得ることとした。

研究方法

インタビューガイドに基づき、11名に対し半構成的インタビュー法を用いた。インタビューで得られたデータから、壮年期2型糖尿病患者のセルフケアの影響要因に関する内容を抽出し、抽出したものから一内容を一分析単位として記述した。記述した分析単位ごとに、対象者の表現に忠実にコード化し、コードが類似の抽象レベルになるようにし、コードの類似性にそってカテゴリー化した。

対象者に対し研究参加は自由意思であること、個人を特定できないようにデータ処理すること等を伝え倫理的に配慮した。

結果

対象者は、壮年期2型糖尿病患者のセルフケアの影響要因は、セルフケアを実施するプロセスの各段階によって異なると捉えていた。その要因は『理解に影響する要因』『受容に影響する要因』『意思決定に影響する要因』『実行に影響する要因』『意思決定と実行に影響する要因』という各段階に影響する5項目が明らかになった。

さらに『理解に影響する要因』は【セルフケアに対する知識・手技不足】、『受容に影響する要因』は【患者の考え方や信念】【受容が困難な疾患特性】、『意思決定に影響する要因』は【セルフケアに対する態度】【セルフケア実行に対する価値】【精神的苦痛がある】【セルフケアを意図することの困難さ】【セルフケア動機を持ちにくい身体状態】、『実行に影響する要因』は【周囲の理解と協力体制】【社会生活にセルフケアを取り込む時の壁】【運動制限がある】、『意思決定と実行に影響する要因』は【患者の自己効力感】という12のカテゴリーから構成された。

考察

対象者は、壮年期2型糖尿病患者のセルフケアの意思決定に影響する要因が最もセルフケア不足に影響するという認識をもっており、この時点の看護師による関わりが最も必要であることが明らかになった。また、患者の体験する「将来への不安、恐怖、及び糖尿病セルフケアそのものから受けるストレス」という精神的苦痛は、看護師の認識よりも大きい可能性が示唆され今後の検討課題となった。

〔平成18年8月24・25日 日本看護研究学会学術集会（大分）にて示説発表〕